

紅簾片岩について

老川 寿太郎*

1. 結晶片岩は15以上の学校で身近な岩石として幼時から遊びたわむれ親しまれている。構造、色、光沢、硬さ、触感などから誰でも分り易く分類されるから、都会から来る子供も自然と親しみ深く沢山の種類を集めている。次のものがその代表者である。

白色	滑石片岩	軟弱	雪白	石英片岩	硬度7
緑色	緑泥片岩		白色	石灰片岩	硬度2
緑白点	緑色点紋片岩	軟弱	紫色	輝緑凝灰質千枚岩	板状軟弱
黒色	石墨片岩	軟板状光沢	黒茶	鉄雲母片岩	硬
黒白点	黒色点紋片岩	軟弱	灰白色	砂状片岩	中程度
銀色	絹雲母片岩	軟弱	緑色	緑色千枚岩	中程度
ピンク	紅簾片岩	硬軟色々	黒色	黒色千枚岩	板状中程度
鶯色	緑簾片岩	硬質			

これらに含有鉱物を加えた形容詞をつけたものを加えると、結晶片岩も100種以上になる。

2. 結晶片岩帯には、この外カンラン岩、ハンレイ岩、輝緑岩、蛇紋岩とバラ輝石、マンガン、黄鉄鉱、黄銅鉱、磁鉄鉱、アスベスト、珪岩なども点在している。滑石片岩をほぐして行く中で中心部から白玉も出る。石灰片岩とカンラン岩、紅簾片岩は主として中央構造線の方角に走っており、一部天竜川の東岸にも分布している。石灰片岩に近く、竜山帯の横山橋付近の石墨片岩の中から、木の葉を中心とする石灰華が出たが、化石皆無に近い変成岩帯に於ける珍しい事である。

3. さて紅簾片岩は、この長瀬変成岩帯の中では

- a. 水窪町大里東南谷
- b. 佐久間町羽ヶ庄 紅血川中腹
- c. 天竜市石打 県道路面下
- d. 天竜市熊平 阿多古川支流 花の沢

の4箇所で見られ、量は極めて少い。それでも水窪と羽ヶ庄産は道路工事、石垣に利用される。水窪産は変成岩帯頂点よりやや南西、水窪川支流に、羽ヶ庄は紅血川東岸の県道の側に露出している。石打は母岩不明のまま長年過ぎたが、県道路面下に埋没していた。少量ではあるが横山川に流出を見る。花の沢は10mの崖に緑色片岩と互層になって露出している。附近には径1mの転石が多い。これらの産地のものの中で、石英質のものはネクタイピン装飾にして利用されている。

4. この4産地の紅簾片岩と秩父産のものとの比較・顕微鏡写真は次頁の様であった。

石英、曹長石、紅簾石、カリ長石、絹雲母を中心とし、外観は石英質、雲母質、中間質とあるが、内部は大同小異であることが分る。問題は揃い方と褶曲にある。

産地	組織	ならび	特徴
水窪産	小粒不揃い	褶曲多し	むら
羽ヶ庄	小粒不揃い	褶曲あり	むら
石打産	大粒揃う	平行脈状	平均質
花ノ沢	小粒不揃い	褶曲多し	曹長石の大塊が所々にある
埼玉産	大粒揃う	平行脈状	均質

* 天竜養護学校

一般に天竜川水系のものは褶曲が多く不揃であり、曹長石の固まりが見られるものが多い。特に花ノ沢産は甚だしい。石打産は色々な面で秩父産に似ている。採取場所にもよるだろうから、天竜川水系は大体同質とみてよい。

花ノ沢産は周辺では緑泥石などを含み、他のものは全然他の含有物はない。

5. 市販スライドによる紅簾片岩と異り、天竜川水系のものは不揃で紅簾石が褶曲をえがいてならんでいることと、曹長石の塊が入っていることなど多少の差があることが分る。

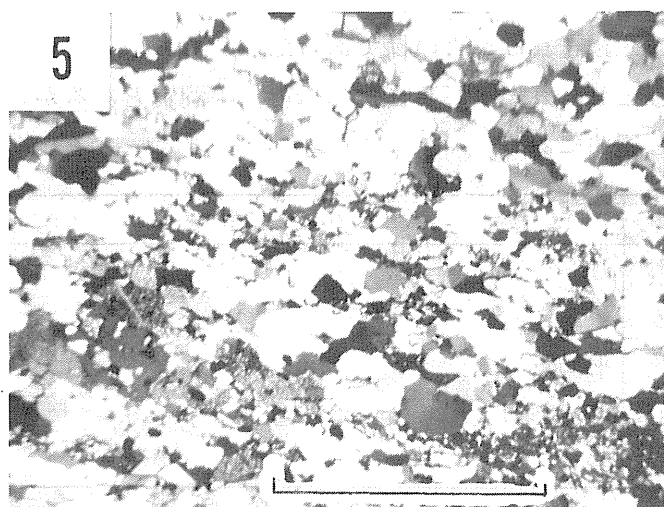
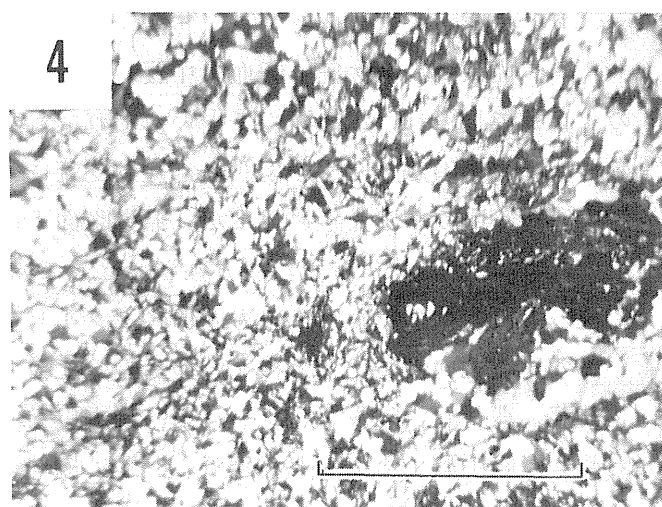
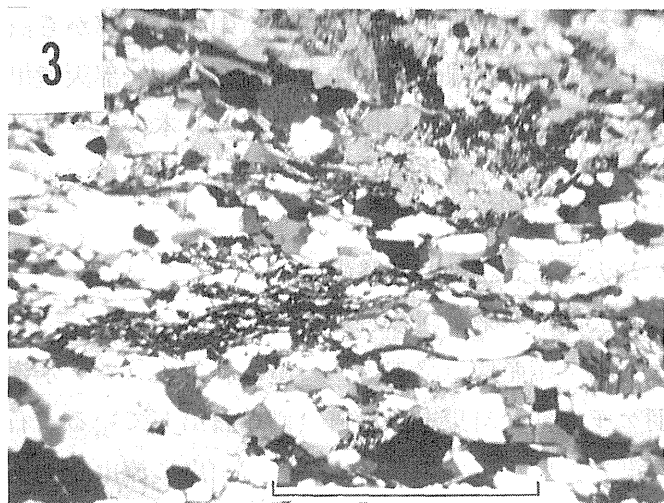
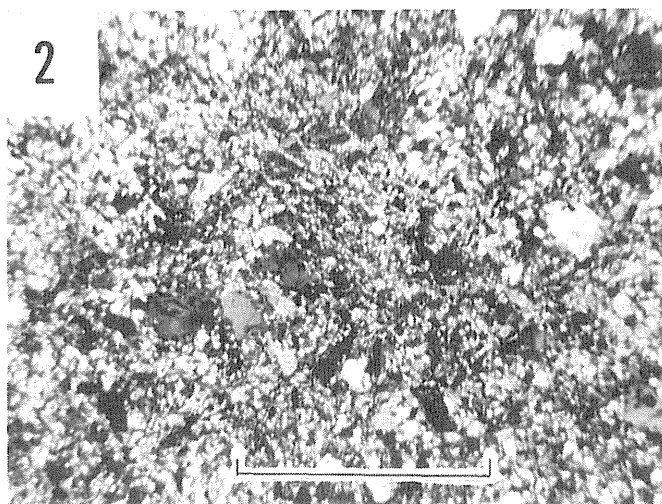
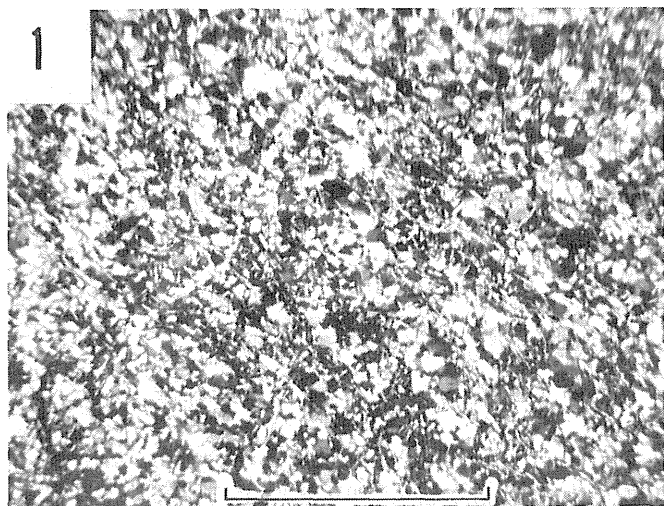


写真 1 : 水窪町本町産
 写真 2 : 佐久間町羽ヶ庄産
 写真 3 : 天竜市石打産
 写真 4 : 天竜市熊平産
 写真 5 : 秩父産

すべてクロスニコール スケールは 1mm